

第15章 情報公開・説明責任

(財政公開)

A群 財政公開の状況とその内容・方法の適切性

大学の公共機関としての基本的性格並びに開かれた大学運営、社会的責任の履行が求められている現状に鑑み、大学情報をわかりやすく提供することは公共機関としての大学の社会的責務であると認識している。特に本学は開学後まだ日も浅く、学校法人こそ開学100周年を迎えているものの、大学は人間学部1学部の新しい大学であり、学部を構成する学科も新しい学問分野の文化人類学科、臨床心理学科、現代社会学科で構成されている。今後、教育研究活動のより積極的な情報提供を図り、社会からの一段の理解と支持を得ることは極めて重要であり、大学運営における大きな目的でもある。更には、大学としての教育研究活動に関する情報提供にとどまらず、学校法人として財務情報の公開についても一段の促進をはかりより内容のあるアカウンタビリティ(説明責任)を果たすことを検討している。

財政公開

1. 現状

財務書類(資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、資金収支内訳表)の公開については、理事会承認後(5月)法人事務局より法人内の各学校に資料が配付される。大学はこれを承けて大学事務局掲示板および大学の指定する学内掲示板に掲示している。

2. 課題と今後の方向

配付される資料は、収支科目毎に概要を説明した「決算の概要」が添付されている。これに加え教員に対しては、直近の拡大教授会(専任講師以上出席)において、法人本部から法人事務局長が出席し説明および質疑の場を設けており、学内教職員に対する公開としてはほぼ評価できる。学生、保護者に対しては、申し出があれば閲覧できるようになってはいるが、現実的には積極的に公開しているとは言い難い。

今後は、本学の保護者会である教育後援会の会報への掲載および2004年7月に創刊された学内広報紙への掲載を実施したい。学内広報誌の創刊趣旨は、教職員および学生に必要な情報を提供することを目的とし、年間4回の発刊を予定して作られたもので、この中で予算・決算についても掲載していくことが予定されている。さらに、情報公開の手段の一つとして、ホームページでの公開についてもその特性に合わせ利用方法の検討を行っている。

なお、財政に関する情報の開示請求に対応するための学園としての規程を、現在準備中である。

(自己点検・評価)

A群 自己点検・評価結果の学内外への発信状況とその適切性

自己点検・評価結果の公開

1. 現状

2001年3月、開学以降の4年間について行われた自己点検・評価の報告書が刊行された。自己点検・

評価報告書の作成にあたっては大学基準協会の内容に沿って行い、報告書は、学内については大学教職員および学校法人京都文教学園理事、監事、その他関係者に配付した。学外については、本学が加盟している私立大学協会およびその加盟大学、京滋学長懇話会および加入大学、大学基準協会、文部科学省、その他、個別に自己点検・評価報告書を寄贈頂いた大学へ配付した。

2. 課題と今後の方向

本学の実情を広く社会に問い、公器としての大学として支持を得るために、自己点検・評価活動を積極的に行い、発信する情報がより積極的な内容となるような自己点検・評価活動にしておく必要性を認識しているが、現在大学全体としての認識には至っておらず、現在大学運営会議にて適切な公開の方法・時期を検討している。また、情報公開の手段の一つとして、財務情報公開と同様に、ホームページでの公開についてもその特性に合わせ利用方法の検討を行っている。